

政治・経済の授業におけるICT機器活用の有効性 —現任校での実践を通して—

大阪府立三国丘高等学校教諭
大塚 雅之

1. はじめに

電子黒板、タブレットなど、大阪府でも情報機器の活用が少しずつ進んできている。現任校でも、数年前より、全ての教室に備え付けのプロジェクターが設置された。そのことによって、教員が教室に行けば、すぐにプレゼンテーションソフトを活用することができる環境が整った。

そこで2014年度は、政治・経済の授業でICT機器を積極的に活用することを目標に掲げた。試行錯誤を繰り返し、およそ50回分の授業を行った。年度の途中に何度か独自にアンケートを行い、授業を変化させていった。本稿では、ICT機器を活用し、政治・経済の授業をどのように工夫していったか、ICT機器の活用は政治・経済の授業で有効なのか、の2点を報告したい。

2. 現任校の政治・経済の授業の位置づけ

現任校は、ほぼ全員の生徒がセンター試験を受験し、国公立大学を目指している学校である。政治・経済は、学年の約半数が選択し、センター試験では「倫理、政治・経済」を受験する。数学や英語に比べると、受験における配点は大きくないが、それでもやはり、おのずと大学入試を意識した授業が要求されてくる。

週2時間、受験科目であるという制約のもとでも、単なる受験向けの授業とはならず、受験にも役に立ちながらも体験的で、生徒が獲得した知識を活用できるような場面のある授業を追求したい、と日頃から考えている。このような「二兎を追う」授業を行うために、パワーポイント(Microsoft PowerPoint)などのソフトを積極的に用い、授業改善をしようと試みた。

3. パワーポイントを用いた授業

しかしながら、実際のところ、パワーポイントを用いた授業や講義は、大学生を中心に、決して評判がよくないようである。教員側が準備に多くの時間を費やすにもかかわらず、受け手には、そのデメリットの方が目立っているようである。そのため、ICTに関するアンケートを定期的実施し、全般的に不評であるか、生徒の学力が向上しないと判断した場合には、従来の授業に戻すつもりで取り組んでみた。

表1. パワーポイントを用いた授業で考えられるメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画をすぐに見せることができる ・板書の時間を短縮できる ・生徒の目線が自然と前にいく ・一度作成してしまえば、他のクラスでも使うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報量が多くなりがちである ・文字を書くスピードの遅い生徒がついていけない可能性がある ・授業の準備にかなりの時間がかかる ・授業が固定化されやすい

表2. 何度かパワーポイントを用いた後の生徒の主な意見

肯定的意見	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画がある方が記憶に残りやすく楽しい ・黒板への板書よりも授業の流れがスムーズ
否定的意見	<ul style="list-style-type: none"> ・書いてあることを写す時間が足りない ・前に色々書いてあるのに、それらを写せない不安

生徒の意見を参考にして行ったこととしては、パワーポイントを中心に授業を進行するのではなく、従来の授業を崩さず、パワーポイントを補助的に用いることであった。また、パワーポイントのデメリットを最小限にし、メリットを活かすために以下のような工夫をした。

表3. 授業でパワーポイントを活かすための工夫

- ・プリントの内容を充実させ、スライドには文字情報をできるだけ入れない
- ・プリントを穴埋め形式にし、スライドのキーワードは、必ずプリントに書かせる。スライド数をできるだけしぼる
- ・顔写真、建物の写真、流れ図、ニュースなどの動画を積極的に用いる
- ・キーワードを除き、ストックの情報は板書、フローの情報は、スライドと区別する

4. ICT機器を活用した実践例

何度もICT機器を活用するなかで、特に有効だと感じた授業実践を二つ紹介したい。

(1) 株式の模擬取引

前任校では、長期間にわたって行っていた株式の模擬取引を、時間の制約がある現任校でも、短期間行うことにした。実際の取引を疑似体験させることで、資金調達のしくみや、需要と供給の関係について実感させることができ、大学受験においても有効だと考えたからである。

まず、見本として、1,000万円を持っていると仮定して作った、私のポートフォリオをスライドに掲示する。その後、「もしも1,000万円を持っていたら、どの会社の株式を買うか？」と問い、予算1,000万円で作成することを指示した。

生徒たちは、お互いに相談しながら、自分のスマートフォンなどを使って、企業について調べ、ポートフォリオを作成していく。何人かの生徒のポートフォリオが書かれたプリントをスライドに映し、なぜそのように作成したのかを発表させていく。次の週には、それぞれのキャピタル・ゲインを計算させ、模擬取引の感想を書かせた。

(2) 国際政治の授業

国際政治の授業については、より具体的なイメージを持たせることを目的に、映像やグーグルアース

(Google Earth)などを多用していった。米ソの冷戦などの現代史については、NHKの『映像の世紀』が非常に役立った。「ヤルタ会談」、「ベルリンの壁崩壊」などポイントとなる出来事を説明したうえで、数分間、実際の映像を見せるといった具合に、映像と説明を組み合わせていった。

その他にも、今まで教えるに感じていた軍縮の授業では、核実験の様子や大陸間弾道ミサイルが発射される映像を見せていった。このような映像と説明を組み合わせた授業は、教科書や資料集だけの授業よりも、イメージしやすいと好評であった。

5. ICT機器を活用した授業の評価・感想

最終的なアンケート(4段階)によると、政治・経済の授業について、ICT機器が適切に活用されているかに関わる項目において、約87%の生徒が「活用されている」と評価し、約12%の生徒が「やや活用されている」とした。また、ICTに関する記述式のアンケートでは、以下のような感想が多かった。

表4. ICT機器に関する生徒の主な感想

- ・板書よりも授業がスムーズに進んでいくのがよかった
- ・年金のしくみだとか、ややこしいしくみの説明はビジュアルで確認できてよかった
- ・映像がある方がわかりやすく、記憶に残りやすかった
- ・黒板に書くよりもまとまっていてわかりやすい
- ・スライドは目で見てわかるような図などがあった

6. おわりに

ICT機器の活用について、生徒からはおおむね肯定的な評価を得た。その意味では、ICT機器の活用は、政治・経済の授業において有効であるといえるだろう。しかしながら、生徒がよいと思う授業が、本当によい授業であるとは限らない。今後の課題は、情報を一方的に与えるだけの授業となっていないか、生徒の学力向上に結びついているのか、などについて基準を作り、分析していくことだと考えている。